

## 毎月の活動3年目

地産地消へ力を入れる



▲直売所来店者に笑顔で野菜料理を紹介する旬の野菜おいしき伝え隊メンバー

J A東びわこ女性部の「旬の野菜おいしき伝え隊」は毎月8日を「野菜の日」として位置づけ、直売所を中心にした活動を展開しています。活動が3年目に入る中、地産地消を合言葉に新調した手作りですりおろしの帽子をかぶり、消費者と顔の見える関係づくりに力を入れています。

2月8日の活動ではハクサイ・ニンジン・ダイコンの食材を使い、店内のオープンキッチンで「白菜と切り干し大根のコールスロー」「人参とほうれん草の白和え」などを調理。具だくさんの味噌汁を組み合わせて定食風に仕上げ試食として振る舞い、併せて調理法の紹介やレシピを配り参加者の関心を高めました。

## 品質向上を目指して

集落座談会の開催

J A東びわこは2月末まで管内155集落で、冬季集落座談会を順次開催しました。集落農業者と直接対話する場を設け、営農担当者が次年度産米の品質と技術向上、収量増へ向けた取り組み内容などを説明し、意見交換などを行いました。

東部営農センターと河瀬龜山支店は2月14日、座談会を南川瀬公民館で開き、農業者13人が集まりました。

開会にあたり経営管理委員の岡野嘉隆委員は「プレミアム米を目指すおいしい米作りと業務用にコストを掛けず多く取る米作りに二極化している。得意とする方で取り組んでほしい」と情勢報告をしました。続いて、支店の岸田司良係長が「J Aの自己改革に関する組合員アンケート」を説明して協力を求め、東部営農センターの西村卓也係長が平成29年度産米の生育経過や検査結果、平成30年度への等級比率向上対策として、気候による被害を最小限に抑えるため、基本技術を的確に行う重要性などを話しました。直売所出荷に向けた野菜栽培などの話もありました。



▲品質向上に向けて説明する営農担当者の話しに聞き入る集落農業者



▲交付金制度を報告する長谷部副主幹

## 農政の現状を学ぶ

研修会を開く

農政研修会を2月10日、みずほ文化センターで開催しました。認定農業者や農業組合長、行政関係者など205人が参加しました。

津田物産業務部の廣瀬浩一郎部長が「平成30年度産以降の需要に応じた米づくりについて」と題し情勢を報告しました。「すでに需要に応じた米作りに取り組んでいるので、今後は流通段階J Aグループと米卸との協力体制がさらに重要です」と述べました。県農産普及課の長谷部匡昭副主幹が「平成30年度環境保全型農業直接支払交付金の制度について」の報告がありました。

日本農業新聞大阪支所の一杉克彦支所長から「地域農業と農政改革による今後の方向性について」と題し講演をされました。



東びわこエリアを中心に、月ごとの楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。

## まるでヒョウタン

珍しい白カブ収穫

愛荘町蚊野の農事組合法人「かの栄農ファーム」のハウスでヒョウタンのような形の白カブが収穫されました。

かの栄農ファームは愛荘営農センターの営農指導員から水稲育苗ハウスの活用として白カブの栽培を提案され、昨年約3.8アールのハウス1棟で始めています。

珍しい形の白カブを見て、職員は「これは春から縁起がいい」と笑顔で話しました。



▲ヒョウタンの様なカブを手にする営農センターの職員

## J A全農が彦根東高校野球部保護者に

「みずかがみ」を進呈

J A全農は昨年末、彦根東高校野球部員の保護者に滋賀県産米「みずかがみ」5キロ47袋を贈呈しました。贈呈式には、立命館大学、J A全農、J A東びわこが出席しました。

J A全農は1993年から「野球の楽しさ」や「食の大切さ」を子どもたちに伝えるため、世界少年野球推進財団(WCBF)が主催する少年野球教室に特別協賛しています。その取り組みの中で、保護者向けの栄養学教室も開催しており、立命館大学の海老久美子教授などの協力で、国産農畜産物を使用した栄養価の高い、バランスの良いメニューの紹介や、成長期の子どものにとって重要な栄養摂取などをアドバイスしています。

今回、立命館大学とJ A全農は、「米飯と国内産食品を中心とした日本型食生活が、高校球児の心身の成長に及ぼす影響」を調査するため、彦根東高校に協力を依頼し、その調査の一環として平成29年10月からJ A東びわこを通じて同校にお米を贈呈しています。野球部員は月4回、部活動後にJ A全農と海老研究室、地元スーパーが連携して考案した地元食材を使った「野球部食」を食べています。毎月J A全農から提供されるご飯は部員が炊き、おむ

すび等にして食べていますが、家庭でもご飯中心の食事を取り入れてもらおうと今回、部員全員の家庭に配布することになりました。

この日、J A全農広報部の落合成年部長は「J A東びわこを通じて地元産米を毎月400キロ届ける」と保護者に話し、彦根東高校野球部保護者会の高内昌紀会長へ滋賀県産米「みずかがみ」を贈りました。

海老教授は「ご飯の提供とスポーツ栄養学に基づく食生活指導が、高校球児の身体や自己管理能力に与える影響への調査・分析に協力いただき、お米を中心とした日本型の食事が体づくりにつながることを実証したい」と保護者に話しました。

立命館大学とJ A全農は、今後4年間かけて同調査を全国で行っていきます。



▲落合部長(写真左)から保護者代表へ贈りました

## ～ J A東びわこ自己改革通信 ～

積極的に生産コストの低減に取り組んでいます

J A東びわこは平成29年度産より本格的に「省力タイプ肥料(これいいね・まかせな彩)」や「農業の大型規格」「ジェネリック農業」などの採用を積極的に行い、農業生産現場が抱える「農業者高齢化に伴う省力化」「生産コストの低減」に向かい合ってきました。

これらは主に管内担い手のみなさまに実施させて

いただきましたアンケートや座談会でのご意見を基に取り組みをすすめてまいりました。

これからも農業情勢の変化や新技術などを積極的に検証し、みなさまの声やご期待に応えるJAづくりを目指してまいります。

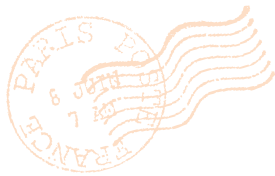
省力タイプ肥料の採用(これいいね等)

農業大型規格の推進

ジェネリック農業の採用



※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広聴誌やその他広聴活動に利用することがあります。



## 営農活動の実績発表

安居営農指導員が優秀賞に



▲優秀賞を受けた安居営農指導員(左から2人目)

J A滋賀中央会は3月2日、県内J Aの営農担当職員を対象とした「J A営農担当職員研修会」を近江八幡市で開き約80人が参加しました。研修会では「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」を目指し、各J Aの営農指導員の代表16人が日頃の活動実績を発表し、相互研さんを図りました。優秀賞の家の光協会局長賞は、J A東びわこの安居英隆営農指導員が「愛荘管内の大豆単収アップを目指して」を発表して選ばれました。

他の受賞者は次の通り(敬称略)。▽最優秀賞＝谷口晴昭(J A北びわこ)▽優秀賞＝上田健司(J Aこうか)、大橋守(J Aレーク伊吹)、川南智弘(J Aグリーン近江)

## 湖が緑、J A間交流

初めての取り組み

ファーマーズマーケットやさいの里二番館で2月24・25日、ソラマメやエンドウ類、ペニハルカ「えい太君」など鹿児島県J Aいぶすき管内の農産物を試食販売しました。J Aいぶすきから役員3人が来訪して販売に協力して、鹿児島県いぶすきの味をPRしました。

この取り組みは、日本一の湖・琵琶湖をもつ滋賀と九州一の湖・池田湖をもつ鹿児島のJ Aが農畜産物の交流を図ろうと試みました。

育成や栽培が重ならず生産時期が埋め合わせできる農畜産物を連携して消費者へ安定した供給をすることが目的です。さらに、農畜産物を通して観光交流など、J Aや地域の活性化を進めることも狙いです。文化イベントや食農教育なども視野にさらなる物的・人的交流も目指しています。

当J Aの馬場義昭経済担当常務は「大きな湖つながりで、面白味のある良い交流になると期待したい」と、取り組みの今後について語りました。



▲J Aいぶすき役員が店頭で試食販売を行う。



▲色とりどりの花を植える生徒

## 花苗植えて交流

養護学校の生徒

県立愛知高等養護学校1年生15人は3月15日、町役場愛知川庁舎前の花壇で、同町東門堂の住民でつくる東門堂環境美化部の3人とパンジー・ビオラの苗を植えました。花壇は庁舎前のモニュメントの下にあり、ハボタンが植えられていた所を生徒らから2日前に整地していました。部員が育てた苗を約700本用意し、植え方を指導しました。くわで土を耕し、部員が溝を付けた所へ、間隔や花の向きを工夫しながら苗を植えました。生徒らは「いろんな人に見てもらえたら、うれしい」と話し、同部代表の西村茂春さんは「学校と地域のつながりが作業を通じて交流を深めていければ」と話しました。

## 加入増加でさらに連携強化

営農法人連協が総会

湖東地域集落営農法人連絡協議会は3月16日、豊郷町の吉田公民館で、平成30年度の総会を開催。約88人が参加しました。

総会は、成宮一郎会長(ファーム肥田代表理事)を議長に平成30年度の事業計画や予算など6議案について可決承認されました。前年度より加入法人が4法人増加して48法人となり、法人間の連携強化と協議会の躍進につながっています。

役員改選もあり、新会長に河村善一さん(ドリームアグリ香掛代表理事)、副会長に田中正剛さん(豊栄ファーム四十九院代表理事)、澤田勘一さん(ファーム方代表理事)が就任しました。



▲就任のあいさつをする河村新会長



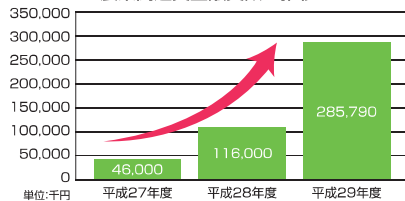
東びわこエリアを中心に、日々の楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。

## ～ J A東びわこ自己改革通信 ～

農業融資に積極的に取り組んでいます

農業融資実務資格の取得など、職員の人材育成による融資対応力の強化に努めるとともに、農家を訪問して農業資金応援キャンペーンや金融商品・営農情報等の提案に取り組んでいます。

### 農業関連資金融資額の推移



## 生産者が先生

米の出前授業

生産者から給食のご飯について学ぼうと、城西小学校5年生69人は2月16日、生産者の出前授業による米の食農教育を受けました。J A職員と市職員も参加しました。

彦根市が「種から全て彦根産＝純ひこね産米」と称し、推進して「純ひこね産米地産地消推進事業」の一環で、地元の学校給食に供給する米について、地域農業に親しみと生産者への感謝の気持ちを持ってもらおうと同校で初めて開かれました。

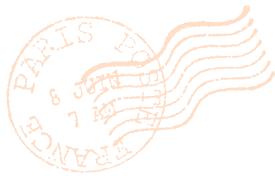
出前授業を担当したのは、吉岡巴津夫さんと鹿谷朋弘さん。吉岡さんは水稲種子生産農家で、「お米づくりの1年」と題し、種のみから苗作り、田植え、稲の生長を説明しました。鹿谷さんは水稲の他、野菜の水耕栽培も行う認定農家で収穫・乾燥、白米になるまでを話しました。

この日の給食には「秋の詩」のご飯が出され、児童は生産者と食べながら交流しました。



▲児童に米作りを説明する生産者

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広報紙やその他広報活動に利用することがあります。



## 常勤役員とTAC連携

担い手へ訪問活動



▲担い手農家を訪問する木村理事長(左)とTAC宇山さん(右)

常勤役員6人と地域農業の担い手に向かうJA担当者(愛称TAC=タック)4人は、担い手への訪問活動を行いました。原則としてアポイントを取らずに1日単位で行い、法人や団体を含む管内担い手を中心に198戸を訪問しました。

JA自己改革の一環で、担い手農家に改革の実践を直接伝え現場の声を聞くことが目的です。

取材を行った5月11日は、木村正理理事長と営農経済部TACの宇山太市さんが同行しました。多賀町の担い手農家の自宅やほ場、作業所を約20分ずつ訪問し、6戸を回りました。担い手農家からは「農業の高齢化による人材不足が深刻化している。それに伴って若手の営農指導職員の育成を強化してほしい」などの意見や要望がありました。

この取り組みは平成30年3月から5月頃まで行いました。聞き取った意見や要望を改革推進部で取りまとめ、関係部署と共有して課題解決に取り組みます。

## 園児がトウモロコシ植える

愛荘町立秦荘幼稚園

愛荘町立秦荘幼稚園の年中50人は5月10日、秦荘支店敷地内の「ミニはたしょう農園」でトウモロコシの種と苗を植えました。普段口にする野菜の生育を学ぶことが目的です。1支店1協同活動の一環で、同支店職員9人が協力しました。

7、8月に収穫予定のトウモロコシを、園児たちは「みんなで食べようね」と一生懸命に植えました。

指導にあたった支店の職員は「小さいうちから土に触れ、農業の大切さを学んでほしい」と話しました。



▲植え方を園児に指導

## 甲良養護学校でいちご摘み交流

5月22日、甲良養護学校で、いちご摘み交流が開かれました。「心を込めて栽培したいちごを収穫させてもらい、お兄さんやお姉さんに感謝の気持ちや親しみの気持ちを持つ」ことを目的に、甲良東保育センターと甲良西保育センターの計56人が集まりました。

お兄さんやお姉さんに「これはまだ収穫するには早い」「ここに大きいのがあるよ」などと教えてもらいながら、園児たちは一生懸命いちごを収穫し「ハウスの中はとても暑かったけど、たくさん採れた」と嬉しそうに話しました。

収穫したいちごは、ジャムにして食べる予定です。みんなで楽しいいちごを摘んで、いい思い出になりました。



▲甲良養護学校でいちご摘み交流



▲石部議長のもと審議がすすめられた運営委員会

## 湖東農業発展誓う

湖東地域農業センターは5月7日、第39年度次運営委員会をJA東びわこ本店で開催しました。県や関係市町の首長、JA関係者が出席しました。

石部和美運営委員長が「地域への食糧供給が持続的に維持・発展できるよう努めよう」とあいさつし、委員長が議長を務め、議事に入りました。29年度事業報告や30年度事業計画など6議案が、全て承認されました。また31年度及び32年度の役員選出があり、運営委員長に石部和美氏、副委員長に野瀬瀬久男氏、監査委員に伊藤定勉氏、木村正利氏が選ばれました。

30年度は、担い手育成・水田農業・特産振興の3部会を中心に湖東地域の農業・農業者の生産意欲や生産基盤の持続発展に取り組んでいます。

## 多収米で経営安定化

JA東びわこは今年度、業務用契約栽培米「コシヒカリつくばSD1号」を導入しました。「コシヒカリ」を母に交配され、茎が短く倒伏の恐れが少ないのが特徴です。やや大粒で平均収量対比で20%の増収を図れるため、中食や外食向けとして注目されています。

5月、管内の農家が植え付けを行いました。作業性に優れ、収量も多い新品種の栽培で、経営の安定化を図ります。

生産者の方は「これまで栽培してきた品種とは肥料が違うなどわからないことが多いが、JA職員と連携し、収量増加を目指して積極的に取り組みたい」と話しました。



▲新品種の植付けを行う生産者



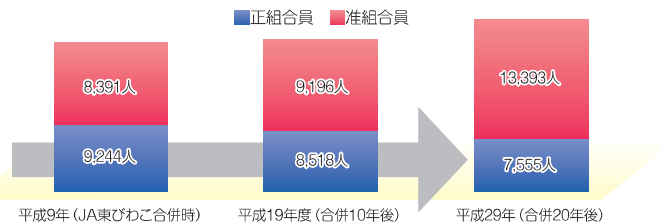
東びわこエリアを中心に、  
目ごとの楽しい情報、  
うれしい出来事をお届けします。

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

JA東びわこでは、組合員加入運動を促進し、組織基盤の安定・強化を図っています。特に近年では「地域農業応援の取り組み」として、新規組合員の皆さまに対し、直売所利用の促進などに取り組んでいます。

また、今後も組合員の皆さまとの対話やアンケートを通じて「組合員皆さまの声」を組織づくりや事業運営に反映した上で、より良い自己改革の実現を目指しています。

### JA東びわこの組合員数推移



※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広報誌やその他広報活動に利用することがあります。

## 農業濁水 発生防止へ

湖東地域農業センターは5月2日、農業排水対策研修会を開きました。知識向上と現状を把握することが目的です。JA東びわこ職員をはじめ、湖東農業農村振興事務所や農業共済組合、各市町の担当者など、10名が参加しました。

滋賀県では、5月中旬にかけて代かきや田植え時期に水田から河川へ、河川から琵琶湖へと流出する濁水が漁業などへ影響を与え、問題となっています。また近年では、遅植えの実践などで、農業濁水が長期にわたって発生する問題も抱えています。

湖東農業農村振興事務所の担当者からの説明の後、宇曾川の上流から下流、河口までポイントごとに巡回して透視度調査を行いました。各団体は農業濁水の防止に向けて今後、パトロールによる指導や農作業の実演会を予定しています。

今回の研修会に参加した当JA職員は「自然環境と農業は切っても切れない関係。上手く育てて収穫すれば良いだけでなく、農業を将来的に続けていくためには濁水の防止といった

自然環境保全に努めなくてはならない。これから農家に向けて適切な情報を発信したい」と語りました。



▲透視度調査をする職員

# 第1回 JA東びわこ旗争奪学童野球大会開催!

地域住民との交流の場づくり



▲開会式の様子

第1回JA東びわこ旗争奪学童野球大会が甲良町総合野球公園で行われ、16チームが優勝を目指して汗を流しました。6月23・9・10日の4日間にわたって開催しました。

5年生を中心としたチームを対象に、「将来を担う子ども達に試合経験を積むことにより野球の魅力や楽しさを伝える場を提供し、スポーツを通じて、子ども達の健全な育成と、各スポーツ少年団相互の交流と友情を深める」ことを目的とし、彦根学童野球連盟が主催、JA東びわこが協賛しました。

2日の開会式では各チーム入場行進の後、旭森スポーツ少年団主将が「いつもサポートしてくれるお父さんお母さんに感謝の気持ちを持ってプレイボールからゲームセットのコールがあるまで最後まで闘い続けることを誓います」と代表で選手宣誓をし、始球式では木村正利理事長が全力投球しました。

決勝戦では、金城スポーツ少年団を3-0で破った多賀少年野球クラブが優勝旗を勝ち取りました。

閉会式では、木村正利理事長が「日頃の練習の成果を十分に発揮し力を合わせて何かをやり遂げた経験は必ず皆さんの糧となると思います」と野球少年達を激励しました。優勝チーム及び準優勝チームが彦根学童野球連盟審判員先導のもと場内を行進し、応援に来ていた保護者らや学童野球関係者の盛大な拍手によって大会の幕を閉じました。



▲木村理事長による始球式



▲優勝チーム及び準優勝チームで記念撮影



東びわこエリアを中心に、月ごとの楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。



## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

みなさまの声をJA東びわこへ =役員による担い手農家訪問=

先月のEすとニュースでもご紹介したように、平成30年3月より順次、常勤役員によるTACと連携した担い手訪問(管内の担い手農家を中心におよそ200軒)を実施しました。担い手農家に役員が直接出向くことで、当JAが行っている「自己改革」の内容をお伝えすることや、より多くの声をお聞きし「農家組合員の声に応えるJAづくり」を目指しています。

「JA東びわこの自己改革」は組合員の皆さまとJAの「相互理解」の上に成り立ちます。

今後も組合員・地域の皆さまとの対話活動を活発化し、地域農業や地域が抱える課題を素早く掴みます。そしてJA運営への方向性を共有し、今後の組合の事業や組織づくりに反映させてまいります。



▲農家組合員の声(一例)

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広聴誌やその他広報活動に利用することがあります。



# 地域農業の担い手紹介

## 犬上郡豊郷町安食南

ありたてつ のり  
有田 哲規さん

### 主要作物の作付面積

| 作物名  | 作付延べ面積 |
|------|--------|
| キュウリ | 7.5a   |
| タマネギ | 40a    |

(平成30年6月現在)

## 作業を楽しんでハウスをフル活用したい

### 減農業を意識したハウス栽培

現在は、ハウス2棟でキュウリを作っています。他には露地栽培でタマネギなどを作っています。なるべく農業を使わず、栽培管理により調整するよう心がけています。

学んだことはしっかりと頭の中に入れて、基本に忠実に栽培するよう意識しています。

### モットーは作業を楽しむこと

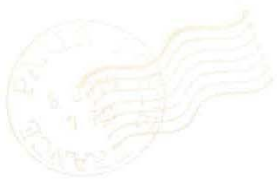
農業は天候に左右されることが多いので大変です。しかし、それに負けたくはありません。作業を楽しむことをモットーに、毎日の農作業に取り組んでいます。

また、年間を通してハウスを有効活用するようにしています。今年この季節はコレ、来年のこの季節はコレ、というように考えるのも楽しんでいます。

### 規模拡大を目指す

今後は、栽培規模を増やしていきたいです。それに伴い、扱った作物の数も増やしていけたらなあと思っています。

自分が作った野菜を食べてもらって、「美味しい」と言ってもらえるのが一番嬉しいです。より多くの声をいただくからこれからも頑張ります。



## 特産「彦根梨」に児童ら興味津々 園地見学を受け入れ



▲「彦根梨」について説明する川岸組合長

彦根梨生産組合は7月3日、彦根市立稲枝北小学校3年生15人の梨園見学を受け入れました。川岸秀二組合長とJA職員が「彦根梨」について児童らに説明しました。

「彦根梨」は彦根市石寺町の梨園で栽培される梨のことで、「幸水」や「豊水」など計5種類の品種が栽培・販売されています。

樹の上で完全熟させて収穫するため、一般の梨と比べて甘みが強く食味が優れるのが美味しさの秘密。

手作業での選別に加え、最新の光センサーを用いることによって高品質な梨を安定して販売することができると話しました。

児童らは、スケッチをしたり、個別に質問を行うなど興味津々。「自分たちが口にする彦根梨がどのようにして栽培されるかよく分かった」「早く美味しい梨を食べたい」などと話していました。

## 活気にあふれる直売所 新たにカフェが始まる

やさいの里 あいしよ館オープンキッチン

### ●毎月5日「陽だまりカフェ」

やさいの里 あいしよ館内のオープンキッチンで助け合い組織「陽だまりの会 たん・とん」による「陽だまりカフェ」がスタートしました。

高齢者の悩みなどを理解してもらえる場をつくりたいという思いをきっかけで始め、毎月5日の14時から15時まで開いています。自称高齢者を対象に、会話の中で日々の生活に関する悩みや苦勞を聞いたり、理解を深めることが目的です。

来店者はコーヒーや茶菓子などを口に、「買い物ついで」と思って来たが、話が弾んで楽しい。また来月も来たいと笑顔で話されていました。



▲会話を楽しむメンバーと来店者

### ●毎月8日「野菜の日」

毎月8日には、目的別グループ「旬の野菜おいしさ伝え隊」が来店者に料理を振る舞っています。

食文化の継承及び安全安心で地産地消に向けた食生活づくりを地域に発信することを目的に、直売所に出荷されている旬の野菜や珍しい野菜を使った料理を来店者に試食してもらい、使用した地域の野菜やレシピを対面キッチンで紹介しています。

試食した来店者からは「素材の味が活かされていてとても美味しい。レシピを貰えたので家ででも作ってみたい」と好評です。

## 変わったナス 大集合

管内で採れた、変わったナスを紹介します

まるで天狗?



▲生産者の方も鼻が高いでしょう

両手が生えたナス人間!?



▲リーゼントもイケてます!



双子ちゃん誕生!!

▲ぴったりとくっついて仲良しです!



東びわこエリアを中心に、月ごとの楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。

## 稚魚の多さに子ども達が驚き

魚のゆりかご水田

農業推進や景観保全などに取り組む「美土里の里田附」は6月24日、彦根市で魚のゆりかご水田観察会を開きました。JA職員をはじめ、県や地元の団体などが協力し、地域の子ども約50人が参加しました。

階段状の排水路を作ることで魚が遡上しやすした魚のゆりかご水田では、4月下旬に魚が遡上、5月中旬に産卵行動を確認しています。堰根を外し流れ出した水流に、子ども達がタモをあてがって魚をすくいました。ニゴロブナの成魚やフナの稚魚などが網いっぱいに入り、歓声が上がりました。

関係者によると、今年は例年よりも稚魚の数が多いといえます。「子どもが親と参加してくれることで三世交代交流ができてうれしい。この取り組みが子ども達の代以降も続くことを願う」と期待を込めました。

観察会では、水槽に入れたフナや稚魚などを全員で観察しました。「ニゴロブナを知っていますか?」という問いかけに対し「ふなずしの原料になる魚」と子どもが答えると、地元関係者らに笑顔があふれました。



▲タモですくった魚を観察する子ども達

## 甲良養護学校による 地域に根差した活動

6月26日、甲良町の具竹梅林親水公園で、梅の収穫交流実習を行いました。

近隣地域等の方々には指導を受けながら交流を深め、実習を通じて協働作業の大切さや楽しさを知ることが目的です。

7月13日には愛荘町後場愛知川(片倉敷地内)の花壇の整備を行いました。汗を流して一生懸命に作業し、現場関係者からねぎらいの言葉もいただきました。

甲良養護学校では作業学習として、この他にも様々な取り組みを行っています。



▲花壇の整備作業



▲脚立に乗って梅の収穫体験

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

准組合員は地域農業の応援団

組合員には「正組合員」と「准組合員」の2種類があります。

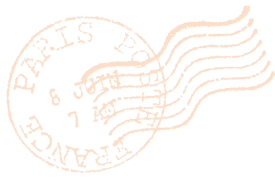
「正組合員」は農業を仕事にしている人(および団体)。「准組合員」は管内地域に住み、農業以外の仕事をしている人です。

准組合員の皆さまがJA事業をご利用いただくことが、間接的に「地域農業の振興」や「農業の活性化」を応援することに繋がっています。

当JAでは総合事業の中で、皆さまが応援いただいた力を「農業」や「地域」に注ぎ、さらなる発展と拡大を目指し続けます。



※JA東びわこでは、予告なく館内や会場で写真やビデオ撮影を行い、広報誌やその他広報活動に利用することがあります。



## 『彦根梨』の缶チューハイ発売

さっぱりと上品な甘さで好評



▲梨色のパッケージで好評発売中

(株)平和堂が、『彦根梨』を使った缶チューハイの販売を8月上旬から全国の平和堂各店舗で始めました。梨の甘みを感じられ、さっぱりして飲みやすい仕上がりです。

彦根梨は、彦根市石寺町の梨園で19戸の生産者が約10ヘクタールの面積で栽培しており、『幸水』『豊水』『筑水』などが生産されています。樹の上で完熟させて収穫するため甘みが強く、優れた食味が特徴です。

彦根梨を地域ブランドとして広く売り出すことで、生産者の生産意欲や所得の向上を狙います。担当職員は「一部完売した店舗もあると聞いている。特産品を少しでも多くの人に知ってもらえれば」と取り組みに対する思いを熱く語っています。

缶チューハイは2,500ケースを数量限定で販売しています。売り切れの際はご了承ください。

## 労災事故を起こさない体制づくりを

施設担当者が事故防止に向け研修

8月9日、彦根市の稲枝技術センターで施設管理運営研修会を開き、各営農センターの施設及び倉庫担当職員ら27人が参加しました。秋口から始まる施設稼働に向け、労災事故の発生防止が目的です。労働安全衛生の観点から今後、施設が稼働する時期に毎回研修会を開くことが決定しています。

営農経済部長が「事故を起こさない体制づくりに努めよう」とあいさつ。担当職員が作業時の服装やクレーン運転時の留意事項を説明しました。

続いてヤンマーグリーンシステム(株)担当者から昇降機の保守点検やレベル計の取り扱いなどについて説明がありました。運転前に必ず点検や整備、周囲の整理整頓をすることや、運転中に故障が生じた場合は必ず機械を止めてから作業を行うよう呼びかけ「操作禁止」と書かれた看板を各施設担当者へ配布しました。

その後、稲枝カントリー内を巡回し、実際に機械を見て操作時の留意事項を説明しました。参加した職員は「基本に忠実に、確実な作業を徹底したい」と話しました。



▲基本の操作を遵守するよう呼び掛けました



▲多くの来場者で賑わいました



▲職員による模擬店も好評でした

## カラオケやフラダンスで賑わう夏祭り

河瀬亀山支店

8月11日、河瀬亀山支店夏祭りを支店前の駐車場で開き、約400人が来場しました。

支店運営委員会や亀山地域農業協同組合連絡協議会、女性部員らで組織する実行委員会を設立し、企画検討を繰り返しました。

実行委員や職員による模擬店では支店管内の農事組合法人が黒豆の加工品や小菊などを販売し、JAオリジナルペットボトル入り玄米茶も人気でした。落語家のてんご堂雅落さんが総司会を務められ、有志によるカラオケやマジックショー、さんさん講座のフラダンス発表、ビンゴゲームなどで賑わいました。

## ジャガイモ収穫体験で笑顔

とよくに子ども食堂

愛荘町東田堂の「とよくに子ども食堂」で8月6日、食堂を利用する子どもたちがジャガイモの収穫体験をしました。同食堂は、食事を通して子どもから大人まで交流ができ、地域ぐるみで子ども達を見守り大切にしたいと、子どもたちのための食堂です。食事だけでなく、農業体験なども取り入れ、ジャガイモは4月に植えていました。

子ども達は「たくさん取れた」とビニール袋いっぱいジャガイモを家に持ち帰りました。収穫体験に協力した関係者は「食事の提供だけでなく、食材がどのようにできるか知ってもらえて良かった」と話しました。



▲収穫体験の様子



東びわこエリアを中心に、  
目ごとの楽しい情報、  
うれしい出来事をお届けします。

## 月桂冠本社の社員らが『みずかがみ』収穫体験

彦根市稲里町のほ場で

8月20日、稲枝酒粕米部が月桂冠(株)の社員7人を招き、米の収穫体験を行いました。

同部会は、近江米『みずかがみ』を使った日本酒を作ろうと、同社と連携を取りプロジェクトを進めています。本社からマーケティング担当や貿易担当の社員を招き、売り手の目線から米作りを知ってもらおうと開催されました。

(株)伊関商会の協力のもと、コンバインに乗って刈り取っていく様子を同社社員の皆さんが興味深く観察していました。また実際に操縦席に乗り、操作を体験しました。「初めて米の収穫をした」と話す社員らは「今日刈り取った部分でどれくらいの米が採れるのか」「水はどこから引いているのか」など、質問を交わしました。その後、管内のほ場を巡回しました。

西田忠彦部会長は「今後も交流を深めて、良い商品ができるよう取り組みを進めていきたい」と話しました。



▲実際にコンバインに乗り収穫作業を行いました

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

准組員総代制度が始まります

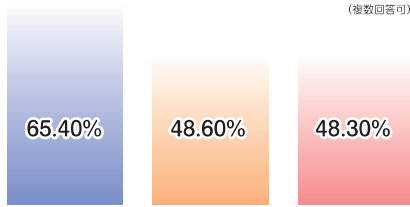
JA東びわこでは今後、准組員の皆さまの意見を聴く場を設け、准組員の皆さまにも深くJAの活動を認識していただくことを目指しています。JAの運営において、構成員である組員皆さまの「声」をいかに事業に反映させていくかが非常に重要です。

現在、組員数では、准組員数が正組員数を上回っています。正組員の皆さまと同様に、准組員の皆さまの「声」もしっかりお聞きし、運営に反映していかなければなりません。

これから運用が本格的に開始される『准組員総代制度』で准組員の皆さまの意見を適切に反映し、これからも元気で活発なJAの運営を目指します。

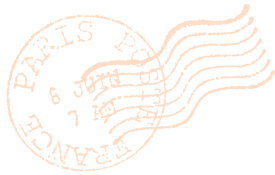
## 准組員が今後JAに期待すること

(複数回答可)



平成29年組員アンケートより抜粋

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広報紙やその他広報活動に利用することがあります。



## 校内田で稲刈り体験

豊郷小学校



▲刈り取りを体験する児童達



稲の刈り取り方を説明してもらいました▶

豊郷小学校は10月2日、校内にある田んぼで稲刈り体験を行いました。5年生の児童41人が、地元農家とJA職員の指導を受け滋賀県産品種「秋の詩」を刈りました。

ヴォーリズ建築で有名な旧校舍群をバックに児童は、鎌を使って1株ずつ丁寧に刈り、「意外と楽しい」「きれいに刈り取れた」などと、出来た喜びを話しました。

## 地域住民にも彦根梨を味わってほしい

多賀支店が1日限定で販売

人気の高い彦根梨を地域住民にも味わってもらおうと、多賀支店が9月5日、店舗の一角で1日限定の販売を行いました。直売所から離れた地域に住み、購入が困難な方などにも味わってほしいと、地域貢献の一環として毎年企画しています。

彦根市石寺町で栽培される彦根梨は樹上で完熟させてから収穫するため糖度が高いのが特徴で、直売所では午前中で売り切れることも多く大変人気を集めています。

多賀町は高齢化率が約34%と高く、直売所へ行くのが難しい高齢者を中心に喜ばれました。

当日は「幸水」を求め、販売前から20人ほどの列ができ、午前中に240袋が完売しました。来店した地域住民は「近場で購入できてありがたい。美味しい梨を毎年楽しみにしている」と笑顔で話しておられました。



▲彦根梨「幸水」を買い求める地域住民



▲彦根市甘呂町の増田さん立会いのもと庭先集荷が行われました

## 「コシヒカリ」を庭先集荷

搬入などの手間・コストを削減

平成30年産米の集荷効率化を図るため、9月上旬に彦根市甘呂町の担い手農家に対して、庭先集荷を行いました。

農業倉庫へ輸送トラックを横付けして、1つ900キロのフレコンに詰めた環境こだわり「コシヒカリ」玄米を集荷しました。その後、同町の検査場で検査を受け、1等の検査証明書と共にそのまま実需者へと出荷しました。

庭先集荷は農家にとって、繁忙期の検査場までの搬入の手間や時間、燃料代などが節約できます。JAにも保管場所の確保や出入庫の手間などが省けるメリットがあります。

集荷を受けた増田英芳さんは「スピーディーで手間が大幅に省けるので助かる」と笑顔で話されていました。

## 新米の販売始まる

各直売所で「新米フェア」開催

9月3日から7日まで、JA東びわこ直売所4か所で「新米フェア」と題し、平成30年度産「みずかがみ」「コシヒカリ」の販売を行いました。

やさいの里二番館では、精米した袋入りの商品を店舗前に並べ「美味しい新米はいかがですか」とPRしました。

来店した買い物客は「もう新米が食べられる季節なんだ」と足を止め、購入されていました。



▲新米売り場で足を止める買い物客



東びわこエリアを中心に、目ごとの楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

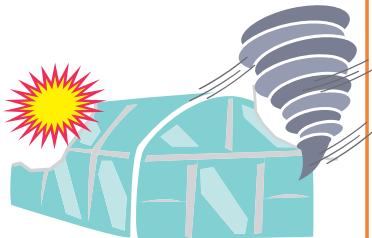
JAとしての災害支援

JA東びわこでは、今年の台風などの自然災害時に、支援対象となる農業関連施設被害に対して『金融支援(実質0%農業融資)』や『農業関連資材支援(資材特別価格供給対策など)』を行っております。\*

県内では3,332件<sup>※2</sup>の農業施設関係の被害が確認され、大変大きな被害となりました。当JAにおいても、上記のような災害支援をはじめとして、営農センター及び支店職員による迅速な災害状況の把握・共有、建物更生共済加入者に対する請求受付業務に尽力いたしました。特に今回のような大きな台風などの自然災害は、農業や地域の暮らしに与える影響が非常に大きくなります。このような自然災害が発生した場合に少しでも農家組合員の皆さまのお力になれるよう、今後様々な農業応援・支援が可能な体制づくりを目指し続けます。

\*1詳細については本誌22ページ及びチラシをご覧ください

\*2平成30年9月12日時点 滋賀県ホームページより



## 台風被害に負けず、前向きに

感謝を込めて「彦根梨」を出荷

9月4日に近畿地方を通過した台風21号の強風で、彦根市石寺町の梨園では、防護ネットが破れ、推定3万玉の梨が落下する過去最大の被害が出ました。同町の梨園で栽培される梨は「彦根梨」としてJA東びわこの各直売所を中心に販売され、「豊水」の出荷が本格化を迎えようとしているタイミングでの台風被害となりました。一度地面に落ちてしまった梨は、加工用としても出荷ができず、全て廃棄するそうです。

彦根梨生産組合の川崎秀二組合長は「梨農家を始めて10年になるが、こんなに被害が出たのは初めて」と話しておられます。台風による天候悪化がピークとなった4日は、梨園の状況を確認しに行きたかったが、外出すらできない状況とことでした。翌日5日、朝6時過ぎに梨園へ向かい、大量の梨が落ちている光景をみて落胆しました。

しかし、川崎組合長は「台風に負けずに残ってくれた梨もあ

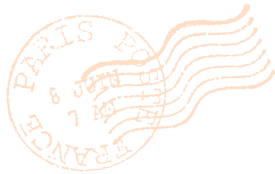
る。ありがとうという気持ちで出荷したい」と笑顔で話しておられました。

JA担当職員も「選果を行う施設にも一部被害があった。農家の方々のショックは計り知れないが、残った梨については心を込めて出荷したい」と前向きです。今後、防護ネットの修繕や補強を進め、梨農家が団結して栽培に取り組んでいかれます。



▲落ちなかった梨に感謝しながら収穫する川崎組合長

\*JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広報紙やその他広報活動に利用することがあります。



## 初期消火大会でJAチームが優勝 防火意識高めよう



▲水消火器を使って的を狙う小川さん

東近江市小八木町の愛知消防署屋外訓練場で10月16日に第6回初期消火大会が行われ、消火器操法女子の部に参加した、秦荘支店の小川愛純さんと愛知川支店の山本永愛さんが優勝を飾りました。

東近江行政組合愛知消防署が主催し、初期消火技術を身につけるとともに防火意識の高揚を図ることを目的に開催され、地域の事業所から45チームが参集し、JA東びわこからは愛知川支店と秦荘支店の職員2チームが参加しました。

消火器操法女子の部に参加した15チーム中、頂点に立った小川さんと山本さんは「優勝することができて嬉しい。練習したことを忘れないよう防火意識を高めていきたい」と喜びを語っています。

## 助け合い組織 「陽だまりの会 たん・とん」が 20周年記念大会を開く

認知症を寸劇で紹介、健康寿命を延ばそう

助け合い組織「陽だまりの会 たん・とん」が10月11日、設立20周年記念大会を愛荘町のハーティーセンター秦荘で開催しました。20年の活動を振り返り、「認知症を理解してほしい」と続けてきた寸劇も上演しました。

同会の谷口幸子会長が「健康寿命を延ばし1日でも長く住み慣れた場所で家族と共に過ごしていただきたいと、活動を行ってきた。今日は楽しんで有意義な時間にしてほしい」とあいさつ。JA共済連の協賛で、元警察官の大橋健治さんの講演や交通安全レインボー体操、落語家による交通安全落語などが行われました。同会員による「笑いヨガ」も行い、テレビを見ながら1人でもできるヨガを紹介して、笑いが体に良い影響をもたらすことを伝えました。

「認知症は病気で、家族はもちろん本人も辛く大変だとわかってもらいたい」との思いで始めた寸劇では、笑いを交えて認知症の症状を紹介。同会員らは、各役になりきり、財布が見当たらず「あなたが盗ったんではない」と疑心暗鬼になったり、食事を済ましたばかりなのに「ご飯まだ?」と言ったり、認知症の症状を笑いも交えてリアルに演じました。



▲認知症の理解を求め寸劇を演じる会員

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

JA東びわこは地元農産物のネット宅配を行っています。

＝「おこめリピート」(JA東びわこ農産物販売サイト)をご存知ですか?＝

当JAでは自己改革の一環として2017年春より、本格的に管内農産物インターネット販売の取り組みを始めました。

「多くの方々に農産物を購入しやすく」を合言葉に、クレジットカード決済やコンビニ払いなど多くの決済方法に対応し、農産物販売サイトである「おこめリピート」が誕生しました。

特に管内産の新鮮で美味しいお米や、地域の特産品「彦根梨」などを多くの方々にご利用いただいており、例えばインターネット宅配であれば「定期購入で地元産のお米が食べたい」「お米が重くて買い物が大変」などの悩みも解決され、ご好評を得ています。

今後も取り扱える「農産物」を充実させ、更なる販売力強化や所得向上策の一環として、取り組んでまいります。



本当のおいしさをあなたにリピート

こめりぴ

検索

おこめリピート

Komeripi.com



▲彦根柿「新秋」手に取る買い客

## 「彦根柿」販売始まる

白慢のあま〜い柿をぜひ味わって

彦根柿生産組合が生産する「彦根柿」の販売が、10月上旬から直売所で始まりました。

同組合では、彦根市稲枝地域の3戸の農家が約80aで、「新秋」「太秋」「富有」の3品種を彦根柿として生産しています。

「新秋」は柔らかい果肉と高い糖度が特徴。「太秋」は大玉の品種で、サクサクとした独特の食感が魅力です。「富有」は緻密でやわらかな果肉が人気で、11月下旬頃からは富有柿の中で特に大玉で形状の良いものを厳選し、生育中に袋を掛けた「袋掛け富有」が販売されています。袋を掛けてじっくりと完熟させることにより、とても糖度が高くなり、彦根柿の中でも最も好評を得ています。

JA担当職員は「今年度の彦根柿は夏の酷暑にも大型台風にも負けず、順調に生育している」と話し、生産者からは「大玉で糖度が高い彦根柿をぜひ一度味わってほしい」と話しておられました。

## 地元産の米食べ比べて

支店まつりで地産地消のイベント

甲良支店が10月21日、同支店敷地内で支店まつりを開き、地産地消イベントとして甲良産米の食べ比べを開催しました。

「みずかがみ」「コシヒカリ」「キヌヒカリ」の3品種をそれぞれ一口大のおにぎりにし「甲良でとれたお米の食べ比べはいかがですか?」と職員がPRしました。粘りが強い、甘みが強い、さっぱりしているなどといった味の違いを職員が紹介し、来場者の皆さんは「食べ慣れた品種が一番美味しい」「みずかがみを初めて食べた」などと、感想を話しておられました。

担当した職員は「どれもほとんど同じ味と思っている人も多いが、よく味わってみると結構違う。これをきっかけに、食や農業に関心を持ってもらえれば」と笑顔で話していました。



▲地元産の米を食べ比べする来場者

## 小麦の播種へ向け研修会

「売れる小麦づくり」を呼び掛ける

湖東地域農業センターとJA東びわこが10月16日、稲枝支店で2019年産の播種に向け「麦の播種前栽培研修会」と題して研修会を開催しました。水田農業における戦略作物として小麦の重要性が高まる中、生産者と関係機関が一体となり麦の品質向上及び安定生産を図り、実需者のニーズに対応した栽培を行うことが目的です。管内の生産者ら70人が参加しました。

営農経済部販売施設課から播種前契約の目的や検査基準、管内で生産された「ふくさやか」の品質と安定生産などについて説明しました。続いてJA全農しが米麦農産部園芸農産課が小麦の情勢について説明。現在、麦は国内需要量の9割近くを輸入で賄っており、滋賀県産の麦についても需要が供給を大きく上回っている。高品質で安定した生産がさらに多くの需要につながると話しました。

その後、湖東東農業農村振興事務所農産普及課が超多収性施肥技術として生育後期に重点を置いた施肥体系を紹

介。穂数の増加及び穂長の拡大が確認され、収量増加を見込むことができるといいます。今後の導入に向けて試験や調査研究、現地実証を続けていくと報告がありました。その他、収量向上対策や適期播種について、作目別の損益計算法などが紹介されました。



▲小麦の播種前栽培研修会を受ける生産者ら

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広聴誌やその他広報活動に利用することがあります。





## 葛籠町自治会が 農林水産大臣賞&特別賞を受賞

平成30年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」で



▲表彰を受ける葛籠町自治会の代表者ら

ホテルルビノ京都堀川で平成30年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」表彰式が11月13日に開かれ、彦根市の葛籠町自治会が農林水産大臣賞（近畿ブロック最優良地区）と特別賞（日本政策金融公庫農林水産事業本部近畿地区統轄賞）を受賞されました。

葛籠町自治会は、自治会と農業組合の連携が重要であるとの認識のもと、それぞれが連携し、農業を核に集落が一体となったむらづくりを展開。平成22年には農業組合法人つづらファームを設立し、米・麦・大豆を中心とした水田農業経営や黒大豆の加工など6次産業化を実践するなどされています。

この事業は近畿農政局が優良事例の表彰を行うことにより、むらづくりの全国的な展開を助長するとともに、地域の連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的として実施しています。

## JAの取り組み直接伝え意見を聴く

常勤役員らが担い手へ訪問活動

常勤役員6人と地域農業の担い手に向くJA担当者（愛称TAC=タック）・営農センター長・支店長が、10月下旬から管内の約200戸の担い手農家を対象に訪問活動を行いました。平成30年3月から3か月の間、TACと常勤役員による担い手農家への訪問活動を実施してきましたが、継続的な訪問を要望する声が多くあったことから、引き続き訪問活動を行いました。

常勤役員らとTAC・営農センター長・支店長がペアを組み、原則としてアポイントは取らずに1日単位で訪問。JAの取り組みを直接伝え、意見を聞く機会を得ることを目的とし、担い手農家とJAとの関わり方に重点を置きました。

11月12日、大協利博理事長と八木原史子TACが農事組合法人フレンドリーファームいしでらの上田泰行代表理事を訪問。石寺町の農業用倉庫で2018年産米出荷に対してのお礼や、2019年産米の水稲施肥設計書・資材申込書の改善点などについて話し合いました。訪問結果は営農経済部で取りまとめ、関係部署と共有及び各会議で報告し、解決につなげていきます。大協利博理事長は「実際に膝を突き合わせると、互いに深い部分が理解できる。JAと担い手農家の関係強化に向けて今後も積極的に機会を設けていきたい」と話しています。



▲農業用倉庫を訪問し、意見交換を行う大協利博理事長



▲「秋の詩」の新米を野村会長に手渡す児童の皆さん

## 地元小学生が社会福祉協議会へ新米を贈呈

「大切に育てたお米です。たくさんの人のために使ってください」

多賀町立多賀小学校5年生の4人とJA東びわこの橋本成行専務、同JA多賀支店の一之瀬浩治支店長が11月7日、多賀町社会福祉協議会を訪問し、近江米「秋の詩」の新米60キロを贈呈しました。

児童らが「大切に育てたお米です。沢山の人のために使ってください」と、橋本専務は「子ども達が学んだ食と農の大切さが込められています」と手渡し、同会の野村清嗣会長が「皆さんが大切に育ててくれたお米を沢山いただき、ありがとうございます」と応えました。

贈呈した米は5年生56人が食農教育学習の一環として、JA職員や地元農家の協力のもと約10aのほ場に苗を植え、9月に収穫したのも。最低限の肥料しか使わず、除草剤など農薬は一切使わないなど環境や安全性にこだわって栽培しました。

この取り組みは、「子ども達が一生懸命作った米を何かに活かすことではできないか」と多賀支店が企画し、去年から実施しています。

## 徳谷健二さんが優勝

滋賀県JAグラウンド・ゴルフ大会

平成30年度滋賀県JAグラウンド・ゴルフ大会が11月14日に長浜バイオ大学ドームで行われ、滋賀県の各JAから予選を勝ち抜いた282人が出場されました。JA東びわこからは43人が出場されました。

競技は24ホールの個人ストロークマッチプレイで行われ、合計スコア「39」で彦根市辻堂町の徳谷健二さんが見事優勝を飾りました。

徳谷さんは2位の選手に4スコア差をつけ、ダントツの1位でした。おめでとうございます。



▲表彰を受けた選手の皆さん（写真中央＝徳谷さん）



東びわこエリアを中心に、  
且ごとの楽しい情報  
うれしい出来事をお届けします。

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

JA職員が組合員皆さまのお宅に訪問いたします（全組合員調査のお知らせ）

当JAでは、JA自己改革や組合員制度に関する調査を目的として「全組合員調査」を実施いたします。

1月から2月中旬をめどに職員が組合員皆さまのご自宅へ伺い、調査概要のご説明と回答書の記入などについて、ご説明にお伺いさせていただいたことがございます。（当JAで選定させていただいた組合員世帯にお伺いする予定です。アンケート書面のみがお手元へ届く場合もございます。）

本調査は全国のJAで実施を行うもので、組合員皆さまのご意見をいただき、今後の運営や地域農業におけるJA自己改革の方向性を判断する上で重要な指針となります。

今後も様々な形で、定期的に調査及びアンケートを実施し、組合員の皆さまや地域の皆さまに求められる「地域に存在感のあるJAづくり」を目指してまいります。訪問させていただいた際には、ご協力の程よろしくお願いたします。

※当記載内容については、一部変更する場合がございます。ご了承ください。



## 地域農業に恩返しを

彦根東高校野球部が台風被害の復旧手助け

滋賀県立彦根東高等学校の野球部員ら29人が11日、甲良町下之郷を訪れ、9月の台風21号の影響で倒壊したビニールハウスの撤去作業を手伝いました。

JA全農と立命館大学は、ご飯の提供とスポーツ栄養学に基づく食生活指導が高校球児の身体や自己管理能力に与える影響について調査・分析することを目的に「高校球児向け栄養教育プロジェクト」を4月から始めており、モデル校として選ばれている彦根東高校野球部は昨年、JA東びわこから近江米「秋の詩」を定期的におよそ100kgほど受け取っています。こうした縁から、高校生が地域の農業を知ることにもつながるとして、撤去作業に協力してもらいました。

撤去作業を行ったのは農事組合法人きり下之郷のビニールハウス。強風により骨組みが大きく折れ曲がっていました。当日の作業に参加した同法人組合員とJA職員、部員らが5班に分かれ、骨組みを抜いて電動カッターなどで切断。約500㎡のビニールハウスがみるみるうちに解体されていきました。

部員の村上鉄さん（17）は「いつもおいしいお米をいただいている。少しでも恩返しできたら」と話し、同法人の阪東隆代表理事は「組合員の高齢化が進む中、若い力のおかげで作業がとてはかどった。本当にありがたい」と感謝しておられました。作業が終わった後は、地域の皆さまから、地元産米を使ったおにぎりや豚汁などを部員らに振る舞うなどして過ごしました。



▲折れ曲がったビニールハウスの骨組みを運び出す野球部員の皆さん

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広報紙やその他広報活動に利用することがあります。



## 甲良養護学校が葉牡丹を贈呈

「玄関が明るくなりました」



▲葉牡丹を受け取る大脇理事長

平成30年12月20日、甲良養護学校の生徒からJA東びわこ本店へ葉牡丹が贈呈され、正面玄関口に飾っています。

代表して受け取った大脇博理事長は「綺麗な葉牡丹をありがとうございます。本店の玄関が明るくなりました」と感謝を述べました。

今年は例年と比べて生育が順調で、大きく立派に育ったとのこと。甲良養護学校からは、およそ18年前から毎年受け取っています。

甲良養護学校の皆さんに、心より感謝申し上げます。

## あま〜い「多賀にんじん」 2月下旬頃まで収穫

生でも甘く学校給食で人気

多賀町の特産品「多賀にんじん」の収穫が12月中旬頃、ピークを迎えていました。

同町では、約40年前から学校給食向けに有機肥料を使ってニンジン栽培しています。「ニンジン嫌いの子でも給食のニンジンは喜んで食べる」と評判になり、約10年前に「JA東びわこ多賀にんじんクラブ」を立ち上げ、出荷が始められました。現在は8戸がおよそ3.5haで栽培し、今年は約100トンの出荷を見込んでいます。

平成30年11月21日は同町久徳の小菅一男部会長と家族の皆さんが、15センチほどに育ったニンジンをも1本ずつ手で抜いて収穫されていました。「多賀にんじん」は普通のニンジンより糖度が高く、小菅部会長は「近くを流れる岸川のミネラルの多い水が影響しているのでは」「ほ場に雪が積もるとさらに甘くなるよ」と話しておられました。

収穫は2月下旬頃まで続き、JA直売所や市場を通じてスーパーなどの小売店に並びます。食べ方は、スティックにしてわびまヨネーズをつけて食べるのが小菅部会長のおすすめだそうです。



▲「多賀にんじん」を1本ずつ手作業で収穫する小菅部会長ら



▲県知事と記念撮影する岡野さんご夫婦

## 彦根市葛籠町の岡野嘉隆さんが受賞

滋賀県農林水産功労賞

平成30年12月20日、大津市の滋賀県公館で「滋賀県農林水産表彰(知事表彰)」が行われ、彦根市葛籠町の岡野嘉隆さんが「功労賞」を受賞されました。

「功労賞」は、長年にわたり農林水産業の分野で県勢の発展と明るい地域社会づくりに取り組んできたことにより、広く県民の模範として特に推奨すべきと認められる個人や団体に与えられます。

岡野さんは、地域農業の発展に向け、地域内での農業機械の共同利用の仕組みを確立するとともに、水稻の湛水土壌中直播栽培技術導入による低コスト化を実現されました。また、JA厚生社小菊部会(現:JA東びわこ花卉部会)会長として小菊の産地育成にも貢献されました。

ご受賞、おめでとうございます。今後とも益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 女性部員が米募り贈呈

愛の米ひとにぎり運動

JA東びわこ女性部は「愛の米ひとにぎり運動」を行い、新米など約180キロを彦根市をはじめ1市4町の社会福祉協議会7か所に贈呈しました。

北村由美女性部長が平成30年12月10日、彦根市の社会福祉協議会を訪問し「JA東びわこの女性部員が協力して集めたお米です」と小袋に分けた米を手渡しました。提供を受けた彦根市社会福祉協議会の園城治男会長は「このような体制を整えてもらい、毎年提供していただいて非常にありがたい」と感謝を伝えられました。

同取り組みは収穫の喜びや新米のおいしさを社会福祉施設の利用者らと分かち合いたいと昭和48年から行っています。今年9月から、取り組みに賛同する支部・家の光グループのメンバーから米などを募り、新米や古米のほか現金や未使用のタオル301枚、ボックスティッシュ20箱が集まりました。



▲集まった米などを手渡す北村女性部長



東びわこエリアを中心に、月ごとの楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

ご存知ですか?直売所の3つの魅力を再発見!

JA東びわこの「自己改革」プランでは、直売所の活性化を目指し、出荷の強化と地域のお客様がご来店いただける店舗づくりを掲げています。今回は、すでに直売所にご来店いただいた方もまだご来店いただけていない方にも「便利」「お得」に直売所を活用していただけるポイントをご紹介します!

### ①朝採れ野菜が大人気!

直売所では早朝から収穫を行った「朝採れ野菜」がたくさん入荷してきます。人気の商品は開店してすぐに品切れになることも多く、午前中のお買い物が大変人気です。

「彦根梨」などの超人気商品も店頭を飾り、JAしかできない商品ラインナップに喜びの声をいただいております。

### ②精米したてのお米は別格!?

玄米の量り売りをご希望のお客様向けに、直売所に設置している精米機で「精米サービス」を行っています。精米したてのお米のおいしさを是非ご賞味ください。

### ③直売所アプリ「旬みつけ」をリリース

今年度、新たな取り組みとしてスマホアプリ「旬みつけ」をリリースしました。今後もより便利に活用できるツールとして情報発信を強化していきます。

以上、その他にも直売所の魅力はたくさんありますが、一部をご紹介します。

組合員をはじめ、地域の皆さまもぜひ一度ご来店いただき、他のお店とは違った直売所の魅力を再発見してください。お待ちしております。

アプリの無料ダウンロードはこちら→



## 豊郷支店で金融防犯訓練を実施

「手を挙げろ金を出せ!」

平成30年12月20日、豊郷支店で彦根警察署の協力のもと、金融防犯訓練が行われました。

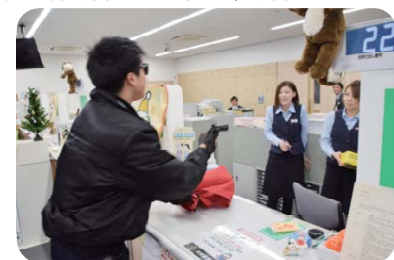
強盗が支店を襲い、現金を奪っていくと想定。拳銃を持った犯人役の警察官が支店へ入り込み「手を挙げろ金を出せ!」と大声で叫び、支店で働く職員らに緊張が走りました。要求通りに現金を渡した後、逃げる犯人を追いかけましたが、すぐに姿は見えませんでした。非常通報装置を押していたため数分後に警察官が来店し、職員が犯人の人相や体格を伝えました。

訓練が終わり、警察署から講評を受けました。とっさの状況では、犯人の人相や体格を見誤りやすいため、複数人の情報を紙にまとめて駆け付けた警察官に伝えてほしい、警察官が駆け付けるまでの時間を少しでも稼ぐために犯人をなだめてほしいなど、ご指導をいただきました。

犯人に最も近い場所で対応に当たった窓口勤務の職員は「訓練とわかってはいたが、いざ犯人を見たら身体が動かなかった」「万一来てた時に日頃から防犯を意識して業務を行いた

い」などと感想を話していました。

また警察署から、振り込め詐欺の被害が近年非常に多いと説明があり、防犯を呼び掛けるチラシを配布したり、大金をおろす際に一言を掛けるなどの対応を呼び掛けました。



▲拳銃を持った犯人役の大声に身体が緊張する職員ら

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広聴誌やその他広報活動に利用することがあります。

## 「おだいどこ野幸」 スペース増設へ向け順調 農事組合法人ファームかなや

甲良町金屋の農事組合法人ファームかなやが運営する同町正楽寺の農家レストラン「ヤッサの里 おだいどこ野幸」が、スペース増設工事を進めています。

同レストランは同法人加工部に元地域おこし協力隊の中屋佐知子さんが加入し、町が改修した古民家を借り受けて、昨年9月にオープンしました。地元の食材を使ったランチやお弁当などを販売し、評判となっています。現在は18席ほどを用意していますが、今年4月に完成予定の離れでは最大20人程度入ることができ、貸し切りなどの対応ができることと見込んでいます。同法人の鋒山定治代表理事は「ゆくゆくは農業体験のできる施設にしたい」と思いを話しておられました。

「おだいどこ野幸」は(月)(火)が定休日。お問い合わせは、ファームかなや(0749-20-7077)へ。



▲「おだいどこ野幸」の主要メンバー。後列中央が中屋さん



▲月替わりのランチメニュー

## 集落営農組織の課題と今後を学ぶ

湖東地域集落営農法人連絡協議会設立5周年記念式典

湖東地域集落営農法人連絡協議会は1月26日、彦根ビューホテルで設立5周年記念式典を開きました。彦根市をはじめ1市4町の農事組合法人や近畿農政局、県農政水産部、JA東びわこなどの関係者148人が集まりました。

同協議会は平成23年(2011年)から情報交換会などを行い、平成26年(2014年)に連絡協議会を設立。その後も現地研修会や視察研修会などを重ね、組織力の強化と地域農業の発展に向けて取り組みを進めていると紹介がありました。

その後、農林水産省経営局経営政策課の依田學課長が農業の未来に向けた新しい働き方について講演されました。農業の未来を切り拓いていくためのポイントとして、少ない人数でも生産性の高い農業が実現できるよ、近年発展しているAIやロボットなどの先端技術を活用した「スマート農業」を速やかに導入すること。それを可能にするような農地の集積と集約化を進め、担い手がまとまった農地を利用できるように整備を進めること。女性や障害者など、多様な人材が活躍できる環境づくりを進めることといった3つを挙げられました。

続く研修会では、県農政水産部農業経営課の鋒山和幸参事が「マーケットインを強く意識した米づくりへの転換」として、近江米の生産や流通ビジョンに基づく米生産の取り組みについて説明されました。今後は産地間競争の更なる激化が予想されることから、県内外における近江米の安定的な需要を確保するとともに需要に応じた生産に取り組む体制づくりを進め、近江米のブランド力向上、そして生産者の所得向上を図ることが喫緊の課題だと話されました。

式典に参加した彦根市の農事組合法人つづらファームの茶木勝代表理事は「今後の集落営農法人の発展をいかに進めていくかがとても重要だと改めて感じた。地域一丸となって持続的な発展を目指したい」と話しておられました。



▲あいさつをされる河村善一会長



▲「旬の野菜おいし伝え隊」メンバーの皆さん(2月8日撮影)

## 旬の野菜のおいし伝え3周年

目的別グループ「旬の野菜おいし伝え隊」

「旬の野菜おいし伝え隊」の活動が3周年を迎えました。地産地消の推進や食文化継承を目的に、平成27年(2015年)に結成し、平成28年(2016年)から毎月8日を「野菜の日」と定め、「やさいの里あいしよう館」で旬の野菜や珍しい野菜を使った試食メニューやレシジを買い物客に提供しています。他にも、昨年9月に行われた「ず」地産地消家の光料理コンテスト」で優秀賞を受賞するなど、精力的に活動を行っています。

1月8日はサトイモ入りだんごのぜんざいや柿なます、ダイコンと鶏もも肉の香味煮など5品を提供。買い物に来られたお客様がカウンターに腰掛け、野菜本来のおいしさが詰まった料理を堪能されました。「野菜嫌いな息子が喜んで食べるのよ」などと会話が盛り上がり、評判は上々です。

北川しげ子隊長は「旬の野菜のおいしさをより広め、いつか行方ができるようになるのが夢」と話しています。

## 特産品「彦根梨」学ぼう

彦根市立城南小で出前授業

彦根市立城南小学校の児童らが1月28日、総合学習「伝えよう彦根の宝」の授業の一環で特産品「彦根梨」について学びました。講師として稲枝営農センターの職員が招かれ、彦根市の石寺町で19人の生産者が約10.4haの梨園で栽培していると紹介。5種類ある品種の特徴やおいしさの秘密を説明しました。また、平成9年(1997年)に現在の彦根梨生産組合が設立され、平成18年(2006年)には滋賀県で初めて光センサー選果機を導入したなどと話し、他にも栽培にあたって嬉しかったことや苦労していることなど、生産者の声を伝えました。

児童から「1日にどれくらいの数を収穫するのですか」と質問があり、職員が「多い時で3万玉」と答えると、驚きの声が上がりました。

授業を受け持った職員は「地域の特産品を知ることで、地元を好きになってほしい。農業にも興味をもってもらえたら嬉しい」と話していました。



▲授業を熱心に聴く児童ら



東びわこエリアを中心に、目ごとの楽しい情報、うれしい出来事をお届けします。

## ～ JA東びわこ自己改革通信 ～

組合員アンケートについてご協力のお礼

平成31年(2019年)1月から取り組みを実施しております「JAの自己改革に関する組合員アンケート」について、組合員皆さまのご協力により、多くのご提出をいただきましたことお礼申し上げます。

当アンケートはJA東びわこをはじめ全国のJAで実施し、JAグループが一丸となり取り組んできた「自己改革」について、組合員皆さまの「声」と「評価」をいただくことができました。

結果については、現在、集計作業を行っており、平成31年(2019年)夏ごろには集計結果を各種広報やホームページなどでお知らせさせていただきます。

組合員皆さまの貴重なご意見を真摯に受け止め、さらに「組合員・地域に求められるJA」となるよう、これからも事業や運動を促進してまいります。

### JA東びわこよりお願い

当JAでは引き続き、「組合員調査(組合員現況調査)」について取り組みを継続しています。組合員皆さまの情報に変更(住所変更、お亡くなりになられた場合など)があった場合や組合員資格に変更が生じている場合などは、お近くの支店窓口へお申し出ください。

※JA東びわこでは、予告なく施設内や会場にて写真やビデオ撮影を行い、広報誌やその他広報活動に利用することがあります。

## 農事組合法人 あめふりのファームが優良賞

近江米振興フォーラムで「みずかがみ」食味コンクール表彰

1月27日、甲賀市水口町の碧水ホールで「近江米振興フォーラム」が開かれました。滋賀県内の生産者をはじめ、指導機関や関係団体が集い「これからの近江米生産振興に向けた期待」や「近江米生産・流通ビジョンに基づく米生産の取り組み方針」など、今後の取り組み方針について意識の統一が図られました。

平成30年(2018年)度「みずかがみ」食味コンクールの表彰式では、豊郷町の農事組合法人あめふりのファームが優良賞(近江米振興協会会長表彰)を受賞されました。誠にありがとうございます。今後とも益々のご盛栄を祈念しております。



▲表彰式の様子

